

バロック・リュートの奏法から見る当時の器楽様式

著者	水戸 茂雄, 坂崎 則子
雑誌名	東京音楽大学大学院博士後期課程 2022年度博士共同研究報告書
発行年	2023-03-31
出版者	東京音楽大学
著者版フラグ	publisher
URL	http://id.nii.ac.jp/1300/00001457/

「バロック・リュートの奏法から見る当時の器楽様式」

2022年11月10日

水戸 茂雄先生のリュート演奏、坂崎 則子解説

バロック・リュートでの実際の楽曲演奏で当時の楽曲の奏法を確かめる。

・フランス・バロックのリュート音楽

この時期は貴族開催のサロンで、思想家 Voltaire や作家モリエール、画家ウスターシュなどが集い、高度な文化水準を築きあげていた。フランス・バロックのリュート音楽もこのような環境で生まれ、レパートリーや装飾法などに当時の好みが大いに反映し、独特な世界が形づくられていった。この時期の調弦や奏法について、説明された項目は以下の通り。

・調弦、ピッチ

1600年頃、ルネサンス調弦から多様なバロック調弦へ変化。ルネサンス調弦は基本的に3度（シーソ）をはさんだ4度間隔の調弦が基本。

ルネサンス調弦；高音からラ-ミ-**シーソ**-レーラ

バロック調弦：高音からファ-レーラ-ファ-レーラ（ニ短調主和音）

バロック・リュートでは特に「カンパネッラ奏法」が多用される。この奏法は各弦間の音程が狭くなったために、音階を弾く際、弾いた音の残響が重なり合い、重層的に鐘（カンパネッラ）が響き合うような独特の効果が生み出される。

当時のピッチについては、ヴェルサイユ「宮廷楽団 Musique de la Chambre」で用いられたタスカン Taskin の音叉(1780年頃のオーボエに合わせて作られた)は a=409。これはリュリのオペラで用いられたピッチと同じ。また、ダルリ・エ・クリコ社製のヴェルサイユ礼拝堂オルガン用の音叉は a=396。現在ではこれらの資料に沿ったピッチが採用されている。

イタリアではリュートはルネサンス調弦のままバロック期を終える。ドイツ語圏ではフレンチ・バロック・リュート（11コース）が入ってくると、一気にフランス様式が定着。後にヴァイス Silvius Leopold Weiss (1686-1750)によってバスに弦が2コース増やされ、13コースのリュートとなって、長大な曲が作曲された。

・リュートにおけるプレリュード・ノン・ムジュレ (Prélude non mesuré)

当時のプレリュードは自由な形式をとり、拍子付けのないプレリュードが多く書かれた。さらに、旗のあるもの、旗のないものの2種類が見られる。

・ノート・イネガル (Notes inégales) と装飾音

一定の音価が連続した時に、それを不揃いに演奏する演奏習慣で、この奏法はすでに16世紀スペインで用いられていた。多くの場合、ここに装飾音が加わって、一層楽曲に豊かな表情が加わることになる。

・スタイル・ブリゼ (Style brisé)

和音を順不同に分散させて弾く演奏法。リュートの装飾法の中でも重要なもののひとつ。和音を分散させて華やかにする装飾法であると同時に、対位的な動きが織り込まれて楽曲に奥行きを与える。

・リュートとクラヴサンの相互影響

アンヌモン・ゴティエ Ennemond Gaultier (c.1575-1651)の影響を受けたルイ・クーブラン Louis Couperin (1626-1661)が、クラヴサン演奏にリュートの奏法を取り入れて「スタイル・リュテ」を確立。こうしたフランスの演奏様式はドイツに取り入れられ、ロイスナー Esaias Reussner (1636-1679)、ロジー Jan Antonin Rosy (ヨハン・アントン・ロジー・フォン・ロージントール c.1650-1721)、ヴァイスなどが使用した。

・舞曲による組曲—まとめ方と副題

17世紀フランス・リュート音楽では、後に確立される室内ソナタの形ではなく、同じ調性の種々の舞曲をまとめて小品集とし、その中から何曲か取り出して演奏された。フランスにおいては副題として神話の神の名を付けたり、曲想とは無関係なタイトルが付けられることも多い。また、中でもトンボー (Tombeau 墓…死者のための追悼曲)として多くのアルマンドが書かれた。

例) アポロン、アティス神の栄光、美しき殺人女、メザンジョーのトンボー等々

・舞曲実際例(演奏)

Preludium 2 曲 Anon.

Prélude Charles Mouton

Prélude Jacque Gallot

Allemande \

Courante BWV995 J.S.Bach

Sarabande /

Courante Denis Gaultier

Sarabande Dufault

ノート・イネガル例

La montfermeil Rondeau Robert de Visée

参考文献、楽譜

ヴェイヤン, J.C.(Veihan)著 細野隆興訳『フランス・バロック音楽 解釈と演奏の原理』

Preludium 2 曲 Anon. Saizenay 写本

Prelude C.Mouton Pieces de luth sur differentes modos

Prelude J.Gallot ライプツィヒ写本 Ms.Lei.116 14 ff.14v-15v

Montfermail rondeau R.de Visée Saizenay 写本

Courante, Sarabande Bach ブリュッセル ロイヤル・アルバート図書館

Allemande, Courante, Sarabande Bach ブリュッセル

ロイヤル・アルバート図書館 fetis2910=fetis2910=Ms.11 4085

Sarabande et Double Default Ceuvres de Default Edition et transcription

par Andre Souris

Courante Gaultier Oeuvres du vieux Gaultier Edition et transcription par Andre Souris

使用楽器

13 コースバロック・リュート a=415hz (紀伊利臣 作)